

5分で読める

一からわかる再配置

公共施設の再配置に関連する基本的な情報をお知らせします。



H30.1.5

Vol.45

貸出サービス開始

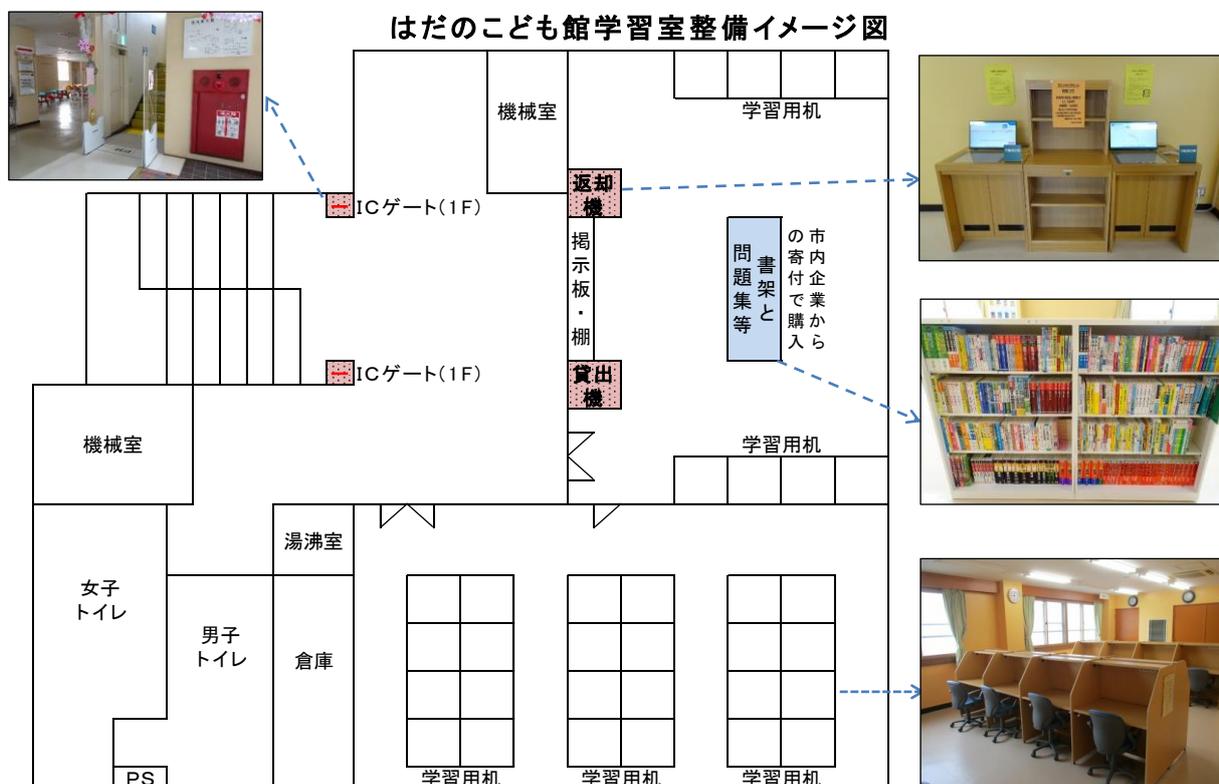
新年明けましておめでとうございます。今年も「一からわかる再配置」を発行してまいりますので、引き続きお引き立てのほどよろしくお願いいたします。

さて、「公共施設は、何のために存在するのでしょうか?」。新年早々、禅問答のようで恐縮ですが、公共施設には、必ず設置の根拠となる法又は条例があります。そして、そこには、設置の目的が規定されていますが、その内容は、抽象的な表現でしかありません。ということは、「こうでなければならない」というものではなく、公共施設には、さまざまなポテンシャルが秘められていると見ることはできるのではないのでしょうか。

このポテンシャルを引き出すための取組として、こども館学習室の整備が行われ、新たなサービスとして、受験用参考書等の貸出サービスが昨年12月24日にスタートしましたので、その内容についてお知らせしたいと思います。

ヒト・モノ・カネ

このサービスは、Vol.36でもお知らせしましたが、本町公民館で実証実験に使用していた図書無人貸出・返却機をこども館学習室に移設し、参考書等の貸出業務を省力化して行うものです。(全体のイメージは、下図のとおり)



実証実験の結果から、「無人貸出サービスは、借りる本の内容を職員に知ら

れないで済むという点が高校生に好まれた。」ということがわかりました。また、その高校生が最も使う受験用参考書等は、一冊数千円するものも少なくありませんが、図書館の蔵書には馴染まず、誰もが借りられる場所がありません。仮に借りられるとしても、人を介せば、学力や志望校が知られてしまいます。

今回開始したサービスは、これらの特性を結びつけ、子どもたちに、家庭環境に左右されない学習環境を提供することにより、本市における青少年の健全育成につなげていこうという趣旨で発案しました。こども館の設置条例には、「こども館は、子どもたちの心身ともに健全な育成を図るための施設」とあります。このサービスは、こども館の持つポテンシャルを引き出し、本来の設置目的に合致した公共施設の機能強化につながるものと考えています。

一つの事業を実施するためには、「ヒト」、「モノ」、「カネ」が必要になります。今回のサービス開始に至るまでには、本町公民館、図書館、こども育成課、教育指導課、資産経営課など、多くの「ヒト」に協力をいただきました。また、「無人貸出・返却機」という「モノ」は、企業との共同実験という手法をとることにより、実験終了後、本市に無償で帰属されるようにしました。そして、下表に示すとおり、実証実験に必要な「カネ」は、財団の助成や共同実験を行った企業の負担。貸出サービスの開始に必要な「カネ」は、市内企業をはじめ、全国の趣旨に賛同してくださる方からの寄付で賄うことにより、総額2,700万円弱の経費に対する一般財源負担はゼロにすることができました。

内 容	事業費	財 源
(1) 本町公民館における 実証実験のための環境 整備	約 2,100 万円	① 図書館振興財団からの助成金 1,000 万円を活用 ② 企業との共同実験 ¹ とすることにより、残りの約 1,100 万円を企業が負担
(2) 無人貸出・返却機の移 設やシステムの導入等 に必要となる経費	約 478 万円	ふるさと納税の制度をクラウド・ファンディング的に利用し、約 492 万円 ² を調達
(3) 参考書等 (350 冊) 及び 書架 (4 台) の購入費用	約 100 万円	市内企業からの寄付 100 万円を活用

必要な行政サービスだからといって、十分な予算が組める時代ではありません。また、このことは一時的なことではなく、今後も続くでしょう。公共施設サービスに限らず、新たな行政サービスを実現させようとするとき、また、継続させようとするとき、「モノ」と「カネ」をどうするのかという点については、今までよりも一層の「ヒト」による創意と工夫と協力が必要になります。

今回のサービス開始に至るまでには、目的意識を共有した多くの「ヒト」の協力がありました。あらためてお礼を申し上げます。そして、これらの「ヒト」たちが得たノウハウは、今後も組織の中で「モノ」や「カネ」に創意と工夫が必要になったとき、きっと活かされていくことになるかと信じています。

¹ 本市からは、利用者の変化に関するデータなどが企業に提供され、経営に活かされています。

² 差額の約 14 万円は、ふるさと基金に積み立て、計画的な参考書等の購入に充てられます。

